



令和5年度 いのちの授業

「いのちの授業」は助産学科の学生がおこなう思春期性教育集団指導として、平成29年から実施しています。

今年度は上名手小学校、那賀中学校、荒川中学校で授業をさせていただきました。

学生は12月中旬から準備をはじめ、何度も何度も練習し、修正を繰り返しながら協力して授業を作りました。当日はかなり緊張していた5人ですが、熱心に聞いてくれる生徒の皆さんに助けられ、力を発揮できました。

小学校での授業

いのちのはじまり、胎児の成長について説明した後、担任の先生の心音を実際に聞かせてもらい、胎児心音と速さを比較しました。また、全員に胎児・新生児の人形を抱っこしてもらいました。

助産学生が「両手を合わせて抱っこしてあげてくださいね」と声をかけると「小さい!」「かわいい!」と言いながら、優しく抱っこしてくれました!



「思ったより重い」という声も。みなさんがいのちの大切さや重みを感じてくれて、うれしい場面でした。助産学生も『助産師がもつ力と可能性』を実感することができました。

中学校での授業



中学校の授業では、思春期について、生活習慣、性感染症、赤ちゃんが誕生するまでの道のりを説明した後、胎児・新生児人形を抱っこしてもらいました。

どのクラスも集中して話を聞き、たくさんの反応を返してくれました。

そして後日、各中学校の先生が生徒の皆様からのメッセージを届けてくれました！！

- 生まれてくることは奇跡なんだと改めて感じました
- 奇跡的な確率で生まれてきた自分のこともすごいと感ずることができました
- 生まれてくることのできた自分のいのちを大切にしていかなければならないと思いました
- 生きる力のすごさがわかりました
- 今自分は思春期で、いつ大人になるのかわからないけど少し楽しみです
- 助産師になりたいと思いました

など

届けられたメッセージを読んだ助産学生、教員ともに感動し、何度も読み返しました。メッセージを書ってくれた生徒の皆様、ありがとうございました。

助産学生にとって何ものにもかえがたい貴重な経験となりました。
各小中学校の先生方、授業に参加してくれた生徒の皆様、本当にありがとうございました。

